



TAKUYA MIZUKAMI

水上 卓哉

TAKUYA MIZUKAMI

## 生の鼓動—— *The Pulse of Life*

水上卓哉の作品から、生の鼓動がほとばしる。地球上に存在する生物が織りなす命の輝きは、彼をフィルターに、「ゆらぎ」へと昇華されるのだ。それは、激しさの中にも静けさや癒しが同居する画面となり、無意識のレベルで私たち観る者の命へ鳴り響く。

水上の特徴の一つは、地球上に存在する多様な生物や植物などの視点から描かれる「生きる」というみずみずしさにあるだろう。この「生きる」という言葉は、「共に生きる」という意味を包含している。水上は、人間だけを特別な生き物と捉えるのではなく、ほかの生物と同じ地球に生きる一つの命にすぎないと考えている。作品のテーマを ONENESS「ひとつであること」と表現しているのも、人間のみが今この瞬間の欲望に放縦し、環境を破壊するのではなく、多種多様な命が存在する美しい地球を未来の子孫に残すべきだと考えているからだ。この考え方に至った背景として、幼少期の交通事故により、生死の狭間を彷徨った体験があるのではないか。死を間近に経験したがゆえに、どう生きるべきかという問いに直面する中で、水上は様々な生物に出会い、描くことで、彼らの命を追体験していく。このプロセスの中で、ONENESSの考え方が生き方の基準となっていった。つまり、未来軸を考慮した利他的な生き方であり、正しく生き、正しく死ぬということでもある。

もう一つの特徴として、「ゆらぎ」があげられる。コントロール不可能な状態とも言い換えられるが、そのような特徴が作品には垣間見られる。上述した事故の後遺症によって、水上の筆致は揺れ動いており、コントロールしようと戦った痕跡が画面に残るのだ。つまり、無意識の身体性が偶然に立ち現れる。まるで、音楽家の即興演奏のように、意思をもって引く線とキャンバスの中に偶然生れた色や形がぶつかり合う。そこには、一見すると激しい印象の中にも、静けさや癒しといった対極の感覚が同居する。自然界にも、上記の特徴は溢れている。音も光も、最小単位の物質でさえ、この宇宙に存在する森羅万象は全て波であり揺れである。一定のようである、予測できない不規則なゆらぎがあらゆるものに存在する。人間がエネルギーや心地よさを感じる際には、ゆらぎが影響を与えているのではないだろうか。水上の作品を前にすると、まさに自然界のゆらぎを感じるのだ。

現代社会ではコントロール不能な出来事というものをあまり考慮しないようになった。それは科学力の台頭がもたらした最も大きな変革の一つである。科学は自然を理論化し、予期可能な存在として再定義した。この働きによって私たちは、偶然による感動や自然に対する畏敬の念を失いつつある。そのような中で、水上の作品は、無意識のレベルから、「観る者の生の鼓動」を呼び起こす。

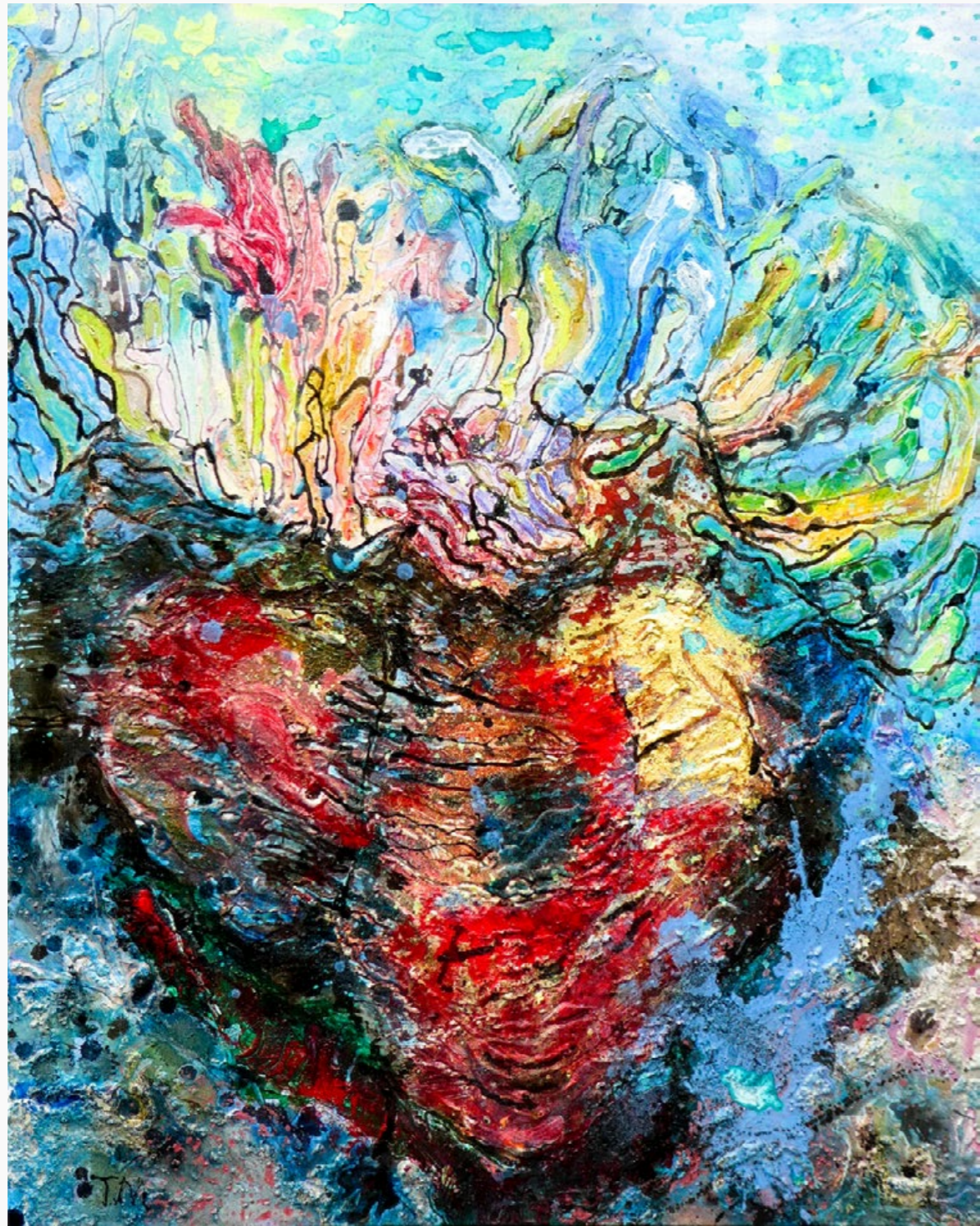
ART BASE PROJECT



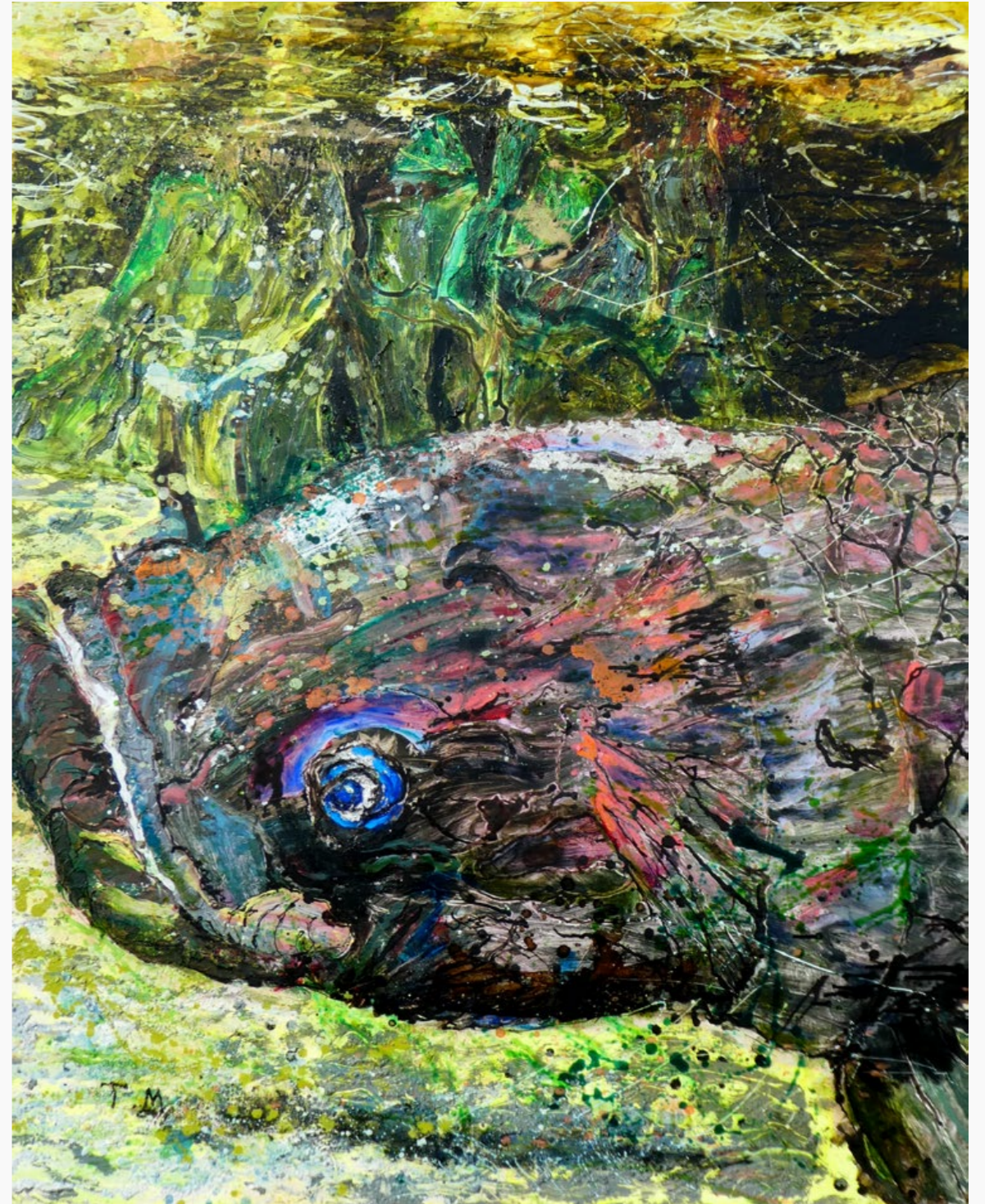
ともに生きる vol2

2016 S50 (1,167 × 1,167 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



この小さな世界 - センジュイソギンチャク  
 2017 F30 (910 × 727 mm)  
 白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
 胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



Blue Eyes - ピラルク  
 2018 F100 (1,620 × 1,300 mm)  
 白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
 胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔  
 シェル美術賞 2018 入選作品



討論会

2015 F10 (455 × 530 mm)

キャンパスに油彩

第2回融合・国際障害者芸術展(日本代表) ベスト創造賞、  
武漢市障害者連合会に収蔵



この小さな世界 - ふぐ

2019 F10 (455 × 530 mm)

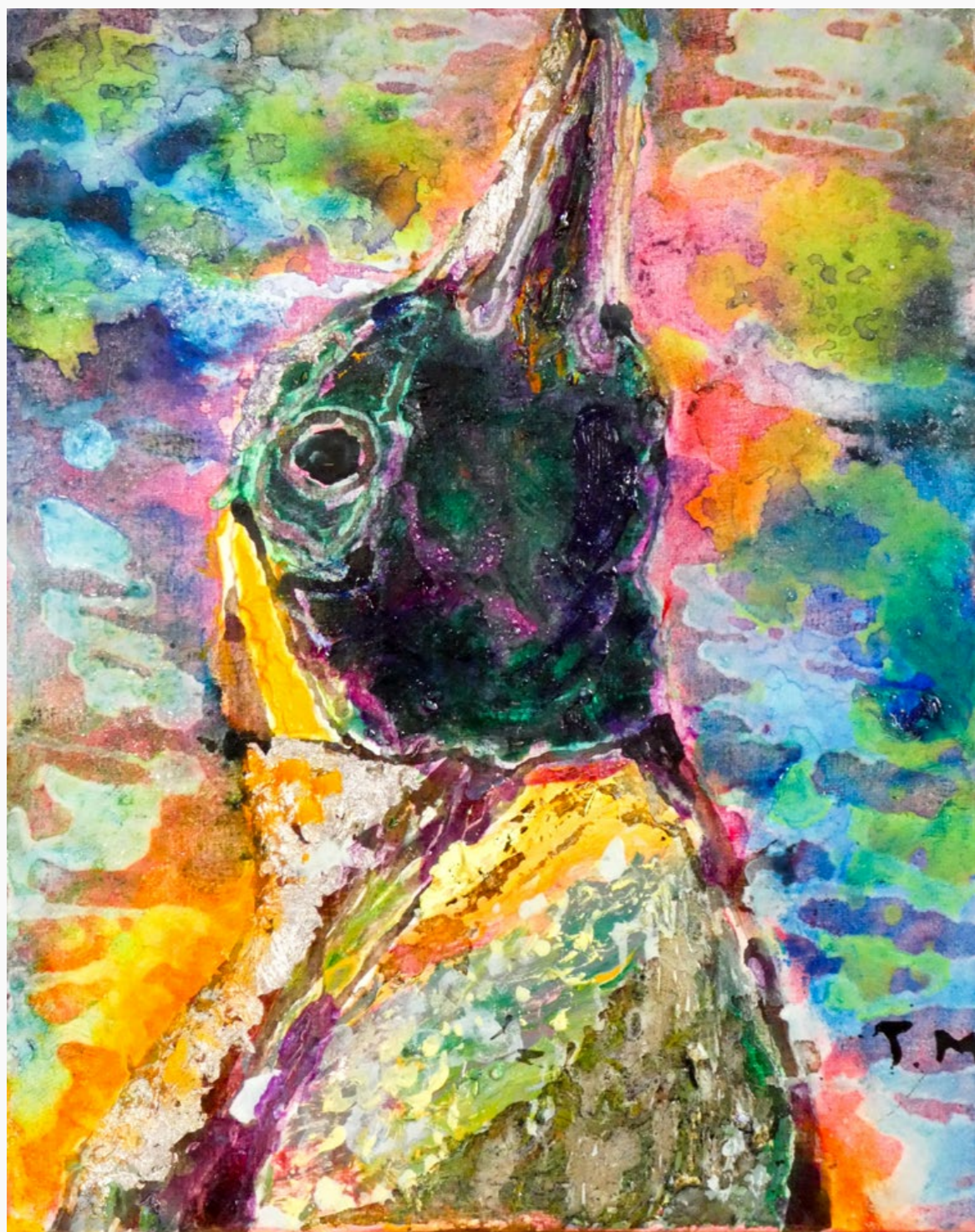
白亜地キャンパスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、顔料、箔、アルキド



**The Thread of Life**

2017 1,940 × 4,480 mm

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、胡粉、  
牡蠣殻、顔料、黒鉛、土、アルキド、箔



I hope ...

2017 F3 (273 × 220 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



この小さな世界 - アオダイショウ

2018 F20 (727 × 606 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、黒鉛、アルキド、箔  
第 229 回ル・サロン入選





この小さな世界 - ジュエルフイッシュ

2018 S3 (273 × 273 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



この小さな世界 - オウムガイ

2018 S30 (910 × 910 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



この小さな世界 - かえる  
2018 SSM (227 × 227 mm)  
白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、顔料、アルキド、箔



King of the River - ピラルク  
2018 1,940 × 2,240 mm  
白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、黒鉛、顔料、アルキド、箔



ともに生きる

2016 3,060 × 1,940 mm

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、黒鉛、アルキド

2016年度京都造形芸術大学通信教育部  
卒業・修了制作展「研究室優秀賞」



龍になれ

2019 3,600 × 1,800 mm

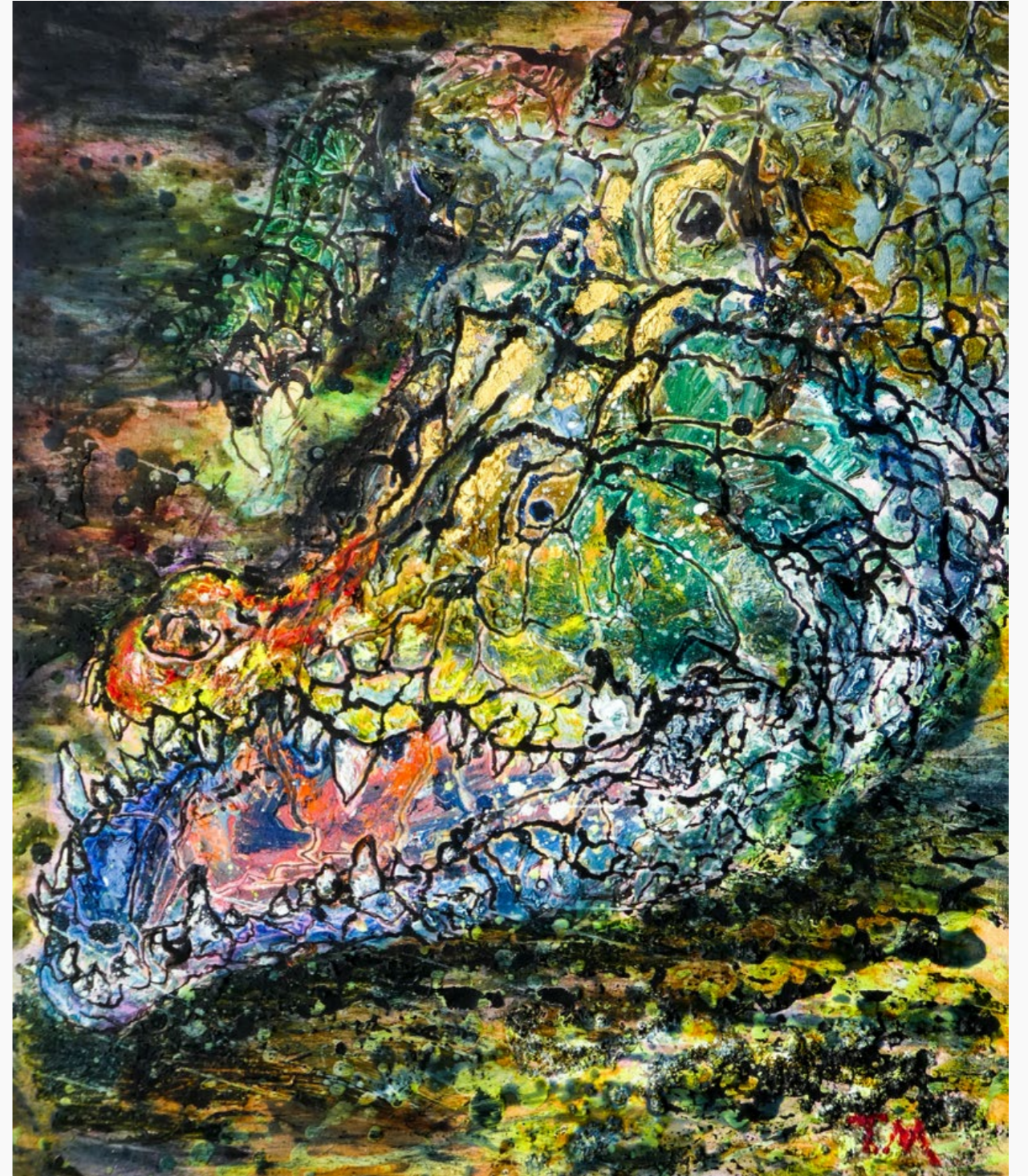
木製パネルに油彩、白亜地、紅茶インク、  
胡粉、箔、アルキド、黒鉛、シジラータ



ともに生きる

2016 F100 (1,620 × 1,303 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、黒鉛、アルキド、箔  
シェル美術賞 2016 入選



この小さな世界 - ナイルワニ

2019 F20 (727 × 606 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、顔料、箔、アルキド



The Thread of Life

2017 F100 (1,303 × 1,620 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、黒鉛、顔料、アルキド



またここで会おう

2018 F100 (1,303 × 1,620 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、顔料、黒鉛、アルキド、箔

FACE 2019 入選



播らぎ

2017 F8 (380 × 455 mm)

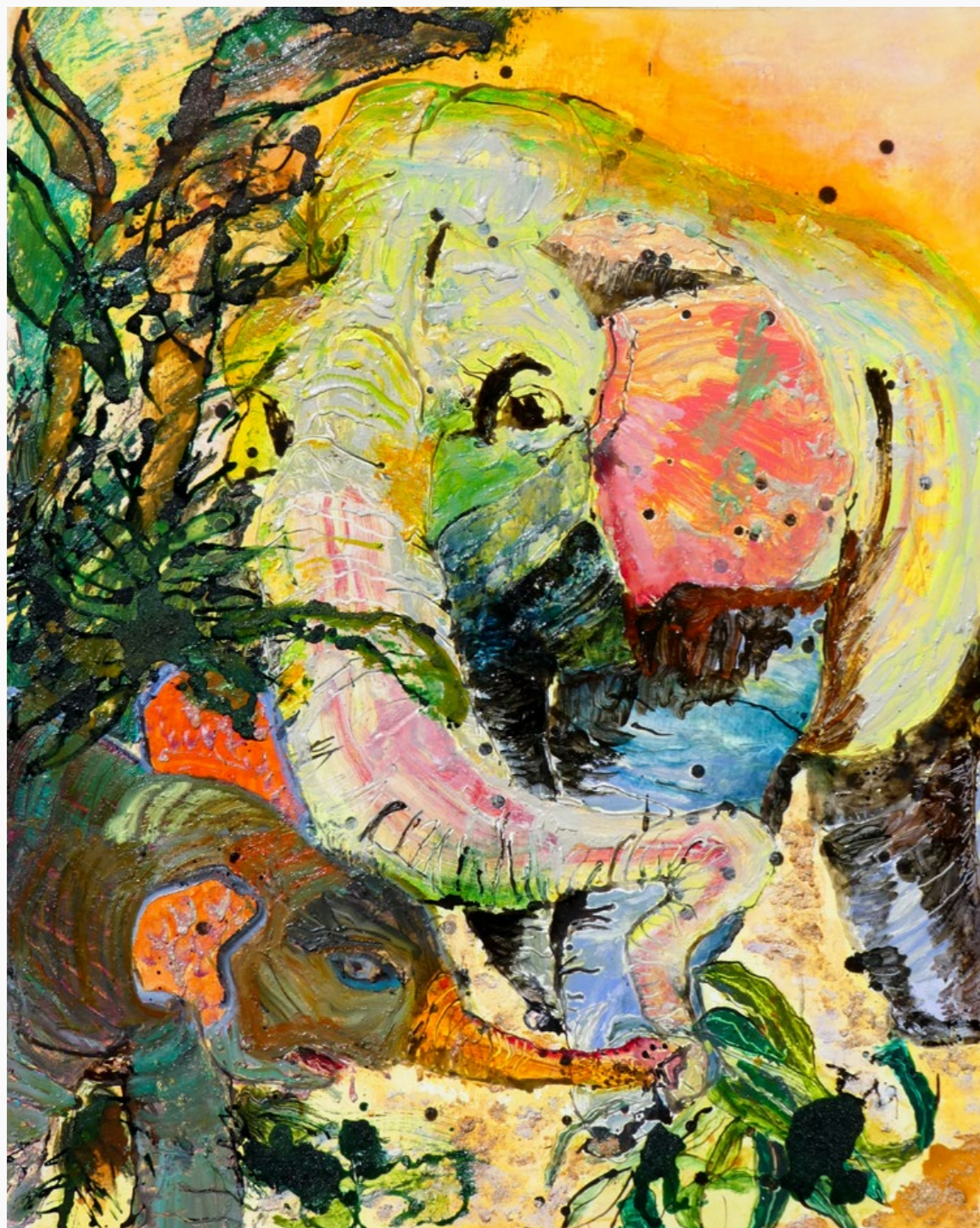
キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



湧き起こる

2018 490 × 630 mm

紙にサイアノタイプ、アクリル、シジラータ



絆  
2017 F100 (1,620 × 1,303 mm)  
白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、土、アルキド、箔



人類よ、私は見ている  
2015 F100 (1,620 × 1,303 mm)  
キャンバスに油彩、牡蠣殻、  
顔料、箔、シジラータ





地球の手紙

2019 F100 (1,620 × 1,303 mm)

キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



砂漠の花

2019 F30 (910 × 727 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、顔料、箔、アルキド



地球の手紙

2019 F100 (1,303 × 1,620 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔  
未発表



地球の手紙

2019 S30 (910 × 910 mm)

白亜地キャンバスに油彩、紅茶インク、  
胡粉、牡蠣殻、顔料、アルキド、箔



虎  
2018 F4 (242 × 333 mm)  
紙に紅茶インク、水彩、箔



三番叟  
2018 A4 (210 × 297 mm)  
紙に紅茶インク、水彩

## 絵を描くことについて

私にとって絵を描くとは何か……。いつも考えている。自分の心を解放させる手段。人に話すより、手紙を書くより、言いたいことを伝えることが出来る。上手くいった時はジェットコースターに乗った時のぎゅーっとテンションが上がってそのあと急降下したような苦しみと楽しみの落差を味わう。

言いたいことを伝えるとは、描くときすでに何を伝えたらよいかを選ばなくてはいけない。厳選するか、言葉をしゃべるように膨大な数を描かなければ、誤解や、言葉足らず、言い過ぎ、言い間違いを招くもとになってしまう。

そして、その時の自分の気持ちを一番表すことが出来る題材を探すことも大切だ。今度は出会えるかもしれないと思いつける。どこかで恋人にめぐり合うかもしれない。そんな気持である。野菜や虫、水族館のセイウチ……。私の興味の先にあるのは「生きる」という事。「生きる」を感じるものを探した。私の眼を通して画面に出た時に余計生き生きしているものを描きたい。7代先の子孫に私の絵で伝えたいことを描く。一生懸命生きることを描く。

私は小学校を卒業する数日前大きな交通事故にあった。一か月半意識が戻らず生死の境をさまよった。命は助かったものの、体には障害が残り、今も私は闘い続けている。

私をここまで回復させてくれたものは芸術の力が大きい。本当に意識のなかった時は、体のマッサージをしながら両親がヘッドホンで好きだった音楽を聞かせてくれたそうだ。目を覚ましてからは「音楽運動療法」といってトランポリンに座って上下に揺らしてもらいながら生演奏を聴いて脳に刺激を送るリハビリをしたりもした。8か月の入院生活を終え家に帰ってきてからは子供のころからお世話になっていた絵画の先生のところへ毎週通った。自分のペースで唯一できること……。それが「絵を描くこと」だった。何を描こう……。どう描こう……。ここは塗らずに残しておこうか……。ゆっくり考え、



わたしは絵を描いて生きます！  
2015 F100 (1,303×1,620 mm)  
キャンバスに油彩

ゆっくり描く。みんなが「すごい絵だ」とほめてくれる。私の絵について話を聞きたい人が出てきたりした。けがをしてから自分にできることを探し続けた日々に「砂漠の中でオアシスに出会った」かのような喜びを初めて感じ私は感動した。壊れた脳がよみがえるには「感動」が必要だと私は思う。私は絵を描きながら「感動の練習」をし、そのおかげで脳も回復してきたのだ。

結局、私にとって絵を描くとは、一言でいうと「対話」である。自分自身の脳との対話。画面との対話。モチーフとの対話。取材に行った先の人との対話。師匠、友人との対話。作品を観ている人との対話。対話を繋ぐものは画面の中の想像の余地のある空間<余白>=<間>だ。鑑賞者との交流に生まれる<間>でもある。

私はよく音楽を聴くが、音のなくなった瞬間<間>に私の脳が動き出す感覚を持つことがある。一瞬に想像が広がり「おお！」という感動が生まれる。私の「おお！」も演奏会の空気の一部なのか…。知らないうちに演奏者と掛け合いをしているという事か。演奏者が互いに、または観客と掛け合いをするように、私もキャンバスの中でできた形やマチエールやにじみを感じ取り画面と自分自身とかけ引きをしよう。そして出来上がった絵によって鑑賞者とも……。そこには「目に見えない想像」が生まれている。「何かが起きるぞ！」

絵を描くことによって、私はそんな掛け合いを、自分が会いに行けない遠くの人とも、200年後の人ともするのだ。

水上 卓哉

# 水上 卓哉

TAKUYA MIZUKAMI

## プロフィール

- 1990 名古屋市生まれ。  
12歳の時の交通事故が原因で身体・言語・高次脳に障害がのこる。
- 2017 京都造形芸術大学大学院芸術研究科（通信教育）芸術環境専攻修士課程  
美術・工芸領域洋画分野 修了  
◀ 現代美術家協会 会員 ▶

## 個展

- 2010 「はじめの一步」(名古屋銀行小田井支店)、愛知
- 2011 「一筆の祈り」(銀座 大黒屋ギャラリー)、東京
- 2012 「oneness ~ひとつの命~」(名古屋銀行小田井支店)
- 2014 「水上卓哉展 楽しんで生きてる?」(ギャラリー東別院)  
真宗大谷派名古屋別院教化事業部主催、愛知
- 2014 名古屋市人権週間記念企画展「水上卓哉作品展 200年後の対話」  
(なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや)、愛知
- 2018 Galeria 卓オープン記念「伝えたい想いは変わらない」(Galeria 卓)、愛知
- 2018 「水上卓哉作品展『ここから・・・』~初個展から今までをたどる~  
(名古屋銀行小田井支店)、名古屋銀行小田井支店主催、愛知
- 2019 「生きてく証」(名古屋栄三越 ジャパネスクギャラリー)、愛知
- 2019 「またここで会おう」(ガルリ ラベ)、愛知

## グループ展

- 2011~ 全国公募現展毎年入選(国立新美術館)東京、  
(愛知県美術館)愛知、(大阪市立美術館)大阪
- 2016 第16回全国障害者芸術文化祭 招待展示(愛知県美術館)、愛知
- 2017 Prologue X III展: シェル美術賞入選者選抜展 (Gallery Art Point)、東京
- 2018 パティオ池鯉鮒(知立文化センター) 特別展「おーえん展(〇〇展)」、愛知

他 多数



2019年撮影

## 受賞

- 2015 Big-i アートプロジェクト 2015 入賞
- 2016 シェル美術賞 2016 入選  
第72回現展 名古屋移動展 中日新聞社賞
- 2017 京都造形芸術大学(通信教育)修了制作展「研究室優秀賞」  
第73回現展「クサカベ賞」及び準会員推挙  
第2回融合・国際障害者芸術展(日本代表) ベスト創造賞  
武漢市障害者博物館に収蔵
- 2018 第229回ル・サロン 2019 入選  
シェル美術賞 2018 入選
- 2019 FACE 2019 損保ジャパン日本興亜美術賞 入選

## アートワーク

- 2010 - 2019 「名古屋少年少女合唱団が贈るクリスマスコンサート」チラシ原画担当
- 2018 中日新聞 歌壇俳壇 カット担当

# 水上 卓哉

TAKUYA MIZUKAMI

## アトリエ

〒452-0943

愛知県清須市新清洲 2-2-2 ARTE 新清洲 1階 Galeria 卓

## 連絡先

〒452-0803

愛知県名古屋市西区大野木 4-534-1

Tel: 052-502-2997

HP: <http://www.atelier-takuya.com>

---

編集・監修: 石上 賢

写真・デザイン: 石上 洋

制作: ART BASE PROJECT

